

頸部BB (1.5T)

コイル→Head Matrix+Neck Matrix

体位→ヘッドファースト

Head Neck→MRA→Plaque
routine

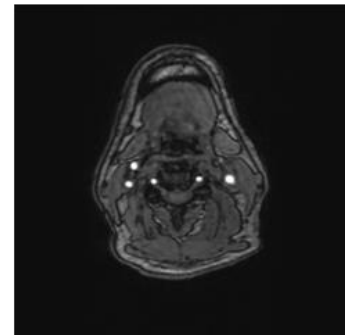
- ① localizer
- ② Vessel
- ③ 3D-TOF
- ④ FS_T1W_SPACE_BB(cor)
- ⑤ FS_T2W_SPACE_BB(cor)
- ⑥ FS_T1W blade(tra)
- ⑦ FS_T2W blade(tra)

③頸動脈分岐部～大動脈弓部(腕頭動脈)
右の腕頭動脈が下がっていることのため
下に余裕持つ

④⑤分岐部中心(青)

⑥⑦分岐部中心(赤)

(狭窄している部分があったらその範囲)



ZIO処理

(1)MRA

1. 動脈だけを残す

2. 保存

3. MIP 横回転

拡大率:160%

(2)BB

1.「FS-T1W_VISTA_BB(cor)」と「FS-T2W_VISTA_BB(cor)」をZIOへ送信。

2.2つのデータ→マルチフュージョン

3.右上→MPR

右のバー(左側)を1番上にして白黒にする

4.分岐部が長軸に見えるようにする

5.拡大率140% 右:右向き 左:左向き になるようにする

5.保存

右:外側→内側へ

左:内側→外側へ

枚数30枚, 厚さ1mm,ピッチ1mmで保存

保存名:「Rt.」「Lt.」など

6右のバー(左側)の数字1を押して2にする

→T2Wになる

7.3-6を同じようにして左側も作成する。

眼窩 (1.5T)

コイル→Head Matrix
体位→ヘッドファースト

Neck → Orbit → Orbit

- ① localizer
- ② T2W (sag)
- ③ DWI(b-0,1000)(tra)
- ④ STIR (cor)
- ⑤ T1W (cor)
- ⑥ T2W (tra)
- ⑦ T1W (tra)
- ⑧ oblique-sag STIR

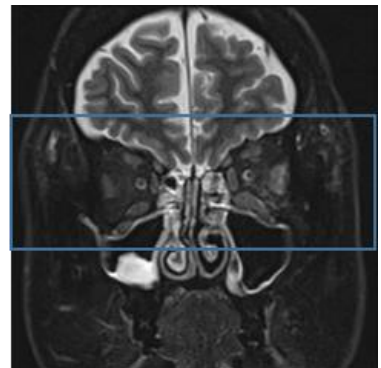
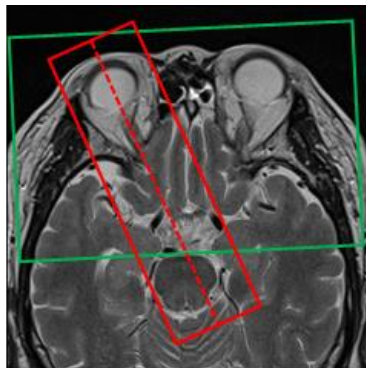
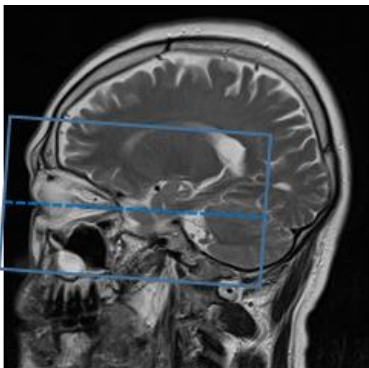
- ② 全脳
- ③ 全脳
- ④⑤ 視神経を左右対称に(緑)
後方は視交叉部付近まで
- ⑥⑦ 視神経を左右対称に(青)
後方は視交叉部付近まで
- ⑧ 視神経に平行 患側のみ(赤)

追加
視野障害

Sag. FLAIR→後頭葉を観察
(注)視神経・視交叉・下垂体など病変に応じて
撮影を追加

バセドウ氏病

眼筋に異常がなければoblique viewはいらない



副鼻腔 (1.5T)

コイル→Head Matrix
体位→ヘッドファースト

Head Neck → sinus

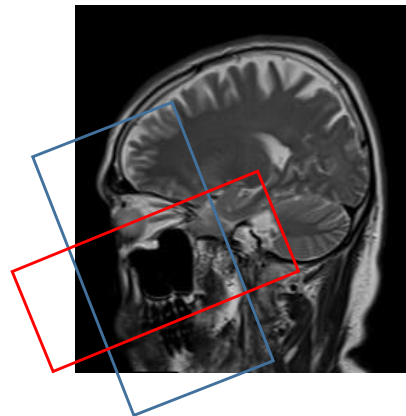
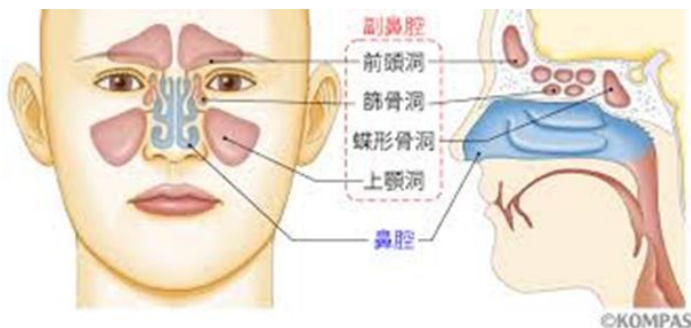
- ① localizer
- ② T2W (sag)
- ③ DWI (tra)
- ④ STIR (cor)
- ⑤ T1W (cor)
- ⑥ T2W (tra)
- ⑦ T1W (tra)
- ⑧ STIR (tra)

② 全脳

③ 全脳

④⑤ 副鼻腔をフルカバー
上顎洞に平行な角度 (鼻を含める) (青)

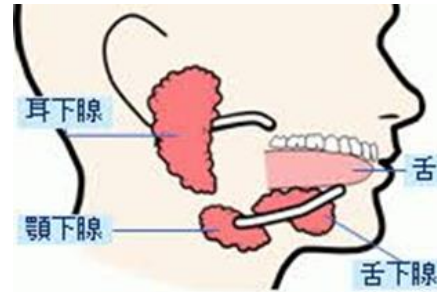
⑥⑦⑧ 病変中心
上顎洞に垂直な角度 (鼻を含める) (赤)



頸部 (1.5T)

コイル→ Neck Matrix

Head Neck → Parotid(耳下腺)
→ Thyroid(甲状腺)
→ Lymph_node_CE(造影)



① localizer@center

② STIR(cor)

③ T1W (cor)

④ T2W (tra)

⑤ T1W (tra)

⑥ STIR (sag)

⑦ DWI(tra)

造影

-injection-

⑧ FS-T1 flash pre(tra)

⑨ FS-T1 flash 40sdelay(tra)

⑩ FS-T1 flash 80sdelay(tra)

⑪ FS-T1 flash 150sdelay(tra)

⑫ FS-T1 Gd (tra)

⑬ FS-T1 Gd (cor)

⑭ FS-T1 Gd (sag)

②③ 顎中央～棘突起中央付近(緑)
(頤椎に沿った角度)

④⑤ 病変部(赤)
舌下腺、耳下腺、甲状腺の各々に設定

⑥ 病変中心(青)

⑦ リンパ節に広がりがないか広めの範囲に設定
されている

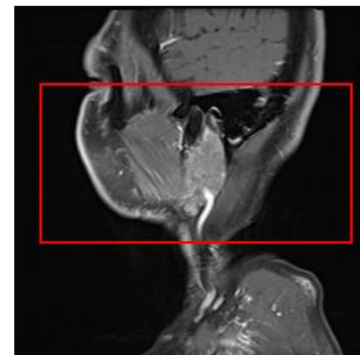
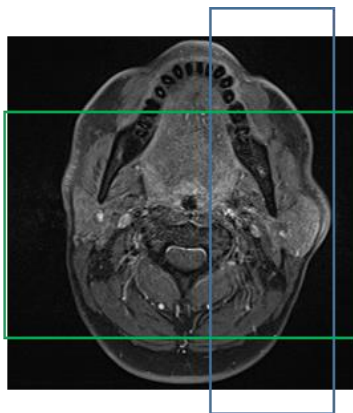
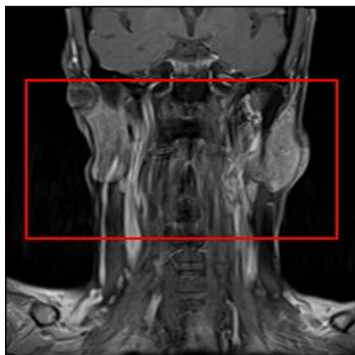
Thin MIP corを作成(invert)

⑧⑨⑩⑪⑫病変部

⑧を撮影し、画像確認。K0を確認し、造影開始。
40s-K0、80s-K0、150s-K0を撮影。

⑬顎中央～棘突起中央付近

⑭病変部

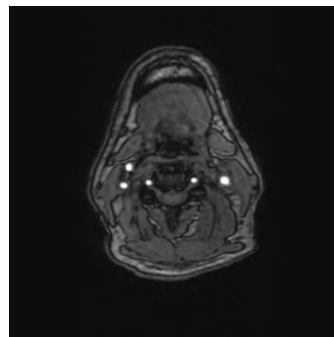
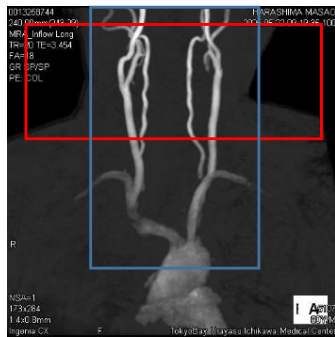


頸部BB(1.5T)

- ・コイル→Head Matrix+Neck Matrix
- ・体位→ヘッドファースト

Head Neck→MRA→Plaque routine

- ① localizer
- ② Vessel
- ③ 3D-TOF
- ④ FS_T1W_SPACE_BB(cor)
- ⑤ FS_T2W_SPACE_BB(cor)
- ⑥ FS_T1W blade(tra)
- ⑦ FS_T2W blade(tra)



ZIO处理

1 MRA

1. 動脈だけを残す

BB

- 1.「FS-T1W_VISTA_BB(cor)」と「FS-T2W_VISTA_BB(cor)」をZIOへ送信。
- 2.2つのデータ→マルチフュージョン
- 3.右上→MPR
右のバー(左側)を1番上にして白黒にする
- 4.分岐部が長軸に見えるようにする
- 5.拡大率140% 右:右向き 左:左向き になるようにする
- 5.保存
右:外側→内側へ
左:内側→外側へ
枚数30枚, 厚さ1mm,ピッチ1mmで保存
保存名:「Rt.」「Lt.」など
- 6右のバー(左側)の数字1を押して2にする
→T2Wになる

眼窩 (1.5T)

- ・コイル→Head Matrix
- ・体位→ヘッドファースト

Neck → Orbit → Orbit

- ① localizer
- ② T2W (sag)
- ③ DWI(b=0,1000)(tra)
- ④ STIR (cor)
- ⑤ T1W (cor)
- ⑥ T2W (tra)
- ⑦ T1W (tra)
- ⑧ oblique-sag STIR

- ② 全脳
- ③ 視神経に対して平行 全脳(青の点線)
- ④⑤ 視神経を左右対称に(緑)
後方は視交叉部付近まで
- ⑥⑦ 視神経を左右対称に(青)
後方は視交叉部付近まで
- ⑧ 視神経に平行 患側のみ(赤)

追加

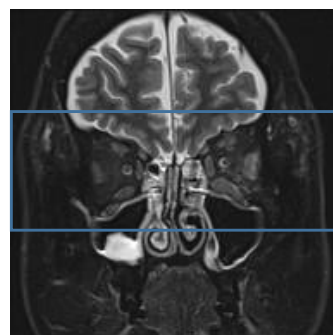
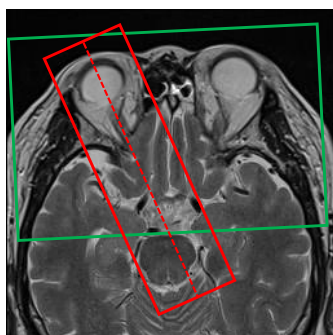
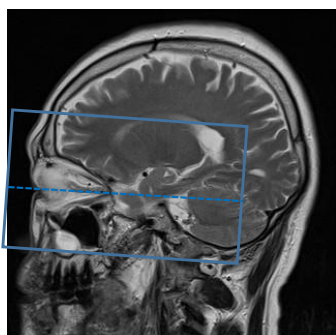
視野障害

Sag. FLAIR→後頭葉を観察

(注)視神経・視交叉・下垂体など病変に応じて
撮影を追加

バセドウ氏病

眼筋に異常がなければoblique viewはいらない



副鼻腔(1.5T)

- ・コイル→Head Matrix
- ・体位→ヘッドファースト

Head Neck → sinus

① localizer

② T2W (sag)

③ DWI (tra)

④ STIR (cor)

⑤ T1W (cor)

⑥ T2W (tra)

⑦ T1W (tra)

⑧ STIR (tra)

② 全脳

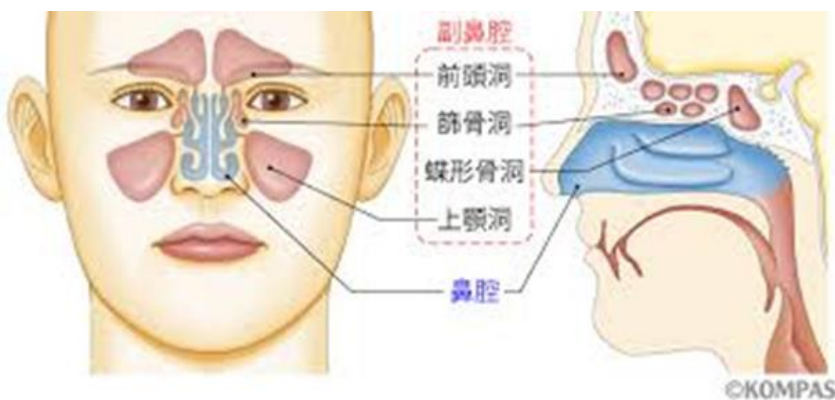
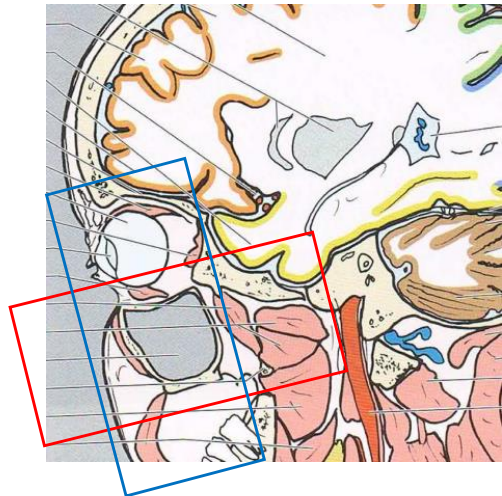
③ 全脳

④⑤ 副鼻腔をフルカバー

上顎洞に平行な角度 (鼻を含める) (青)

⑥⑦⑧ 病変中心

上顎洞に垂直な角度 (鼻を含める) (赤)



頸部 (1.5T)

・コイル→ Neck Matrix

Head Neck → Parotid (耳下腺)
→ Thyroid (甲状腺)
→ Lymph_node_CE (造影)

○ルート: どちらの手でもOK。22G。

○インジェクター設定

・ガドビスト 0.1ml/Kg × BW

・ガドテリドール 0.2ml/Kg × BW

① localizer@center

② STIR(cor)

③ T1W (cor)

④ T2W (tra)

⑤ T1W (tra)

⑥ STIR (sag)

⑦ DWI(tra)

造影

-injection-

⑧ FS-T1 flash pre(tra)

⑨ FS-T1 flash 40sdelay(tra)

⑩ FS-T1 flash 80sdelay(tra)

⑪ FS-T1 flash 150sdelay(tra)

⑫ FS-T1 Gd (tra)

⑬ FS-T1 Gd (cor)

⑭ FS-T1 Gd (sag)

②③ 顎中央～棘突起中央付近(緑)
(頤椎に沿った角度)

④⑤ 病変部(赤)

舌下腺、耳下腺、甲状腺の各々に設定

⑥ 病変中心(青)

⑦ リンパ節に広がりがないか広めの範囲に設定されている

Thin MIP corを作成(invert)

⑧⑨⑩⑪⑫病変部

⑧を撮影し、画像確認。K0を確認し、造影開始。

40s-K0、80s-K0、150s-K0を撮影。

⑬顎中央～棘突起中央付近

⑭病変部

